

舟橋 京子・岩永 省三・福原 美恵子

動物骨格標本展示に関する小論

---

Reprinted from Bulletin of the Kyushu University Museum No. 11  
pp. 13-18, March 2013

---







### 3. 展示



図4 展示導入部

#### a) 導入

展示スペースへの導入部では九州大学総合研究博物館の紹介パネルとともにゾウの頭蓋を展示している。ゾウと言えば長い鼻を連想させるが、骨格標本になると軟部組織である鼻は消えてしまう。生体での特徴と骨格標本になったときの違いを大きく意識してもらうために展示を行っている(図4)。次に、展示スペースに入ると、入り口に展示趣旨兼標本の紹介パネルとともにヒトの全身交連骨格模型を展示している。これに関しては、先述の通り、観覧者に自身の骨格を意識してもらうことを目的としている。

#### b) 四肢骨比較展示:霊長類とキリン

見た目が異なっても実際には同一部位である「相同器官」を認識してもらうことを展示の目的とし、躯幹および四肢骨を用いた比較展示を行った。展示標本の選択にあたっては、骨格標本から観覧者が自身の身体に引き寄せて考えやすいように、ヒトと近似した骨格を有する霊長類を選んでいる。比較標本として、見た目の異なる四足動物であり、大きく骨格が異なる動物



図 頭蓋比較展示(キリンとサイ)

の事例としてキリンを選択している。

まず、キリンの特徴の1つに長い首が挙げられる。但し、キリンも霊長類も頸椎の数は7点で同じである。では、首の長さはなぜ大きく異なるのか?この違いについて興味を持ってもらうため、両者の頸椎を並べて展示している。

次に、中手骨および前腕を用いた展示を行っている。中手骨に関しては、霊長類はヒト同様手の甲を形成する。一方、キリンでは前肢の3分の1強を占めている。動物の骨格に関して専門知識を持たない多くの人が人間の前腕にあたと考えているキリンの前肢遠位側1/2が実は人間の手の甲と同じ中手骨を起源とするという点を理解してもらうことを意図し展示を作製している。

同様に相同器官でありなおかつ骨の数の違いが異なる場合があることを理解してもらうためにキリンと霊長類の前腕の比較展示を行っている。霊長類では橈骨・尺骨2本の骨から前腕部が形成されているが、キリンではこの2本の遠位側3分の2が癒合した状態で前腕部が形成されている。形が類似してはいるが進化の過程で骨が癒合することを理解しやすくするために展示を行っている。

## b)ほ乳類頭蓋比較展示(図5)

### i) 生体との違い:角の有無

動物園で親しみのある動物である、キリン・サイには、生体においてはそれぞれ角がみられる。キリンの頭頂部の角は骨格標本になっても頭蓋の一部として観察可能である。一方でサイの場合鼻上部に角を持つが、角の成分が骨とは異なり骨格標本になると頭蓋には残らない。生体においてはそれぞれ「角」として認識される器官が、骨になった場合どのように見えるかを認識してもらうために各1頭ずつの頭蓋・下顎骨を並列して展示を行っている。

### ii) 食べ物・生態による違い

食料獲得や食べ物そのものの違いに起因する眼窩の位置・歯牙のかたちなど様々な頭蓋の形態の差異を理解してもらうため、肉食獣と草食獣の頭蓋骨を各3点展示している。加えて、野生のイノシシとブタの雌雄それぞれを展示し、鼻部の短縮化・犬歯の退化など家畜化に伴う変化を認識してもらうために展示している。

### iii) 全身骨格比較展示

家畜としてなじみ深い馬・牛の交連骨格標本を周囲360度いずれの方向からも観察可能な状態で並列して展示を行っている。これらの2種は偶蹄目と奇蹄目で四肢の形態や上顎前歯の有無、歯牙の本数、大腿骨の第3転子など様々な骨の数・形が異なっており、観覧者により着眼部位が異なることが予測される。

## 4. おわりに



本展示に関しては、以上の通り展示製作者の誘導形の展示ではなく半誘導・半自発型の展示を意図し、展示を行った。本来であれば展示意図の効果を確かめべく形態差異への興味や認識度を「誘導型」と「自発型」の展示双方でアンケートを行って確認する必要があるが、現段階では行うことができていない。当館では残念ながら未だ正式な展示空間の建設にいたっておらず、本展示に関しても常時公開できていないため、次回の公開にあわせてアンケートを用いた観覧者の認識度の調査を行いたい。

## 謝辞

本展示にあたっては、標本移管および標本データについて九州大学大学院農学研究院の西村正太郎准教授には大変お世話になった。深謝したい。

新井重三,1981:展示の形態と分類,新井重三・佐々木朝登編,博物館学講座第7巻,雄山閣,東京.

加藤嘉太郎,1962:家畜比較解剖図説,養賢堂,東京.

加藤嘉太郎,1969:家畜比較発生学,養賢堂,東京.

木場一夫,1949:新しい博物館:その機能と活動,日本教育出版社,東京.

九州大学大学院農学研究院「博蓄会」編集委員会,2001:九州大学農学部畜産学科50年史,福岡.

鶴田総一郎,1956:博物館入門,理想社,東京.

デイヴィッド・バーニー編,2004年:世界動物大図鑑,ネコ・パブリッシング,東京.

舟橋京子,2011:古人骨展示に関する小論,九州大学総合研究博物館研究報告,9

